


審査結果報告書

2018 年 8 月 31 日

主 査 氏 名 三 投 信 

副 査 氏 名 田 邊 聡 

副 査 氏 名 河 内 康 雄 

副 査 氏 名 隈 元 唯 介 

1. 申請者氏名 魚嶋 晴紀
:

2. 論文テーマ : Wisteria floribunda agglutinin-positive human Mac-2
binding protein in decompensated cirrhosis
(非代償性肝硬変における Wisteria floribunda
agglutinin-positive human Mac-2 binding protein の有
用性)

3. 論文審査結果 :

Wisteria floribunda agglutinin-positive human Mac-2 binding protein (WFA-M2BP)は、線維化の進展に伴って変化するタンパク質上の糖鎖構造の変化をとらえる新しい種類の血清マーカーで、肝疾患では慢性肝炎から肝硬変、肝臓に至る過程において、肝線維化の程度を早期に判定できる新規マーカーとして注目されている。これまでの研究で、WFA-M2BP は、肝生検による組織学的線維化分類 (F1~F4) と強い相関を示し、とくに F3(慢性肝炎)と F4(肝硬変)の鑑別能が極めて高いことが報告されているが肝硬変での臨床的意義に関しては不明な点が多い。そこで申請者は、代償性肝硬変から非代償性肝硬変への進展過程における WFA-M2BP 値の変化とその臨床的意義について検討した。対象は、20 歳以上の肝硬変患者 207 例 (113 例:代償性、94 例:非代償性)で、非代償性肝硬変の定義は、肝性腹水・消化管静脈瘤破裂・肝性脳症などの合併症を有するものとした。非代償性肝硬変の WFA-M2BP 値は、代償性肝硬変に比べて有意に高値であった。また、WFA-M2BP 値は、Child-Pugh スコアと強い正の相関を示した。以上の結果から、申請者は、①WFA-M2BP 値より肝硬変の合併症 (腹水・静脈瘤など) の有無の予測が可能である。②WFA-M2BP 値が高値の場合は、肝硬変の予後が不良であると結論付けた。その後の公開審査では、申請者は審査員からの多種多様な質問についても適切に答えることができた。審査員は、学位論文の内容の高さ、質疑応答の的確さから、医学博士の学位に十分値する判断した。